

地震・豪雨・コロナ苦難を越えて

九州地区仏壮大会を開催

結成50周年迎えた熊本教区仏壮

九州地区門信徒の集が10月30日、熊本市中ら会員1048人が参

加した。熊本県湯前町・明導寺の藤岡教頭住職が「み教えに出遇えた喜びを次の世代に伝えてもらいたい」と話

い「第24回仏教壮年熊 央区の熊本城ホールで 本大会・熊本教区仏壮 開かれた。沖縄県宗務 連盟結成50周年大会」 特別区と九州8教区か

行委員長（熊本教区 びを行動へく復興支援 仏壮連盟理事長）を旗 活動から見えてきたも

閉会式では、荒木勝也前理事長が「震災、豪雨、コロナ感染という、こんな時代だからこそ親鸞聖人の教えが、仏壮の活動がどうしても必要。朋友の輪

手に入場から始まり、本 大阪大学大学院の稲場 田郁雄同連盟理事を調 圭信教授が「宗教と利 声人に理事8人が出勤 他主義く災害時にも、 して参加者と一緒に正 信偈をおつとめた。 藤岡住職は「熊本地 援し「本来なら6年前 震、令和2年7月豪雨 だったが、熊本地震や で甚大な被害を受け だった。復興のために現在 豪雨災害に遭い、今年 やつこの思いで開催で も「頑張ろう熊本」頑 きた。仏壮として被災 張ろう人吉・球磨」の が行われ、豪雨後に開 地では、後片付けや救 フレーズが使われてい 援物資の運搬などを助 発された地域の伝統食 け合いながら行った。 がつらい」と、被災地 品などを参加者限定で コロナの感染は続いて の声を伝えた。そして 販売した。収益で食料 いるが、できる範囲内 「阿弥陀さまは頑張れ や日用品を購入し、人 での活動を」と呼びか ではなく、「大丈夫、私 設住宅の被災者に配布 けた。 にまかせなさい」とは する予定。

